特別
へ4
5260
2

門 へ4
辨 5260
巻 2

昭和二五年
十二月四日

拾遺和歌集巻第十一

恋一

天暦御時歌合　　壬生忠見

恋とてはかなき人を思ふ心をば
平兼盛

恋とてはかなき人を思ふ心をば

権中納言敦忠

藤雅正元

侍従八五位元仕赤染

心八月侍従八五位元仕赤染

権中納言敦忠

原邦正

引歌宣明説王母

小野宮右大臣実頼公

桑子弾正尹章明説王母

香云

兼通

人麿

序所し

序所し

序所し

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中巻

の巻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原實方朝臣

序文かう紙

柿ぬり

童蒙抄云淀津ハ
芭蕉ゝ

天暦御時分会丹　中納言朝忠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

千こハ更ノ部
あけ行ぬ
法えし

たとあきをしひけこの海ちに行わすれ
こもあり法ケ

拾遺和歌集巻第十二

戀二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題しらず

[illegible]

[illegible]

[illegible]

平院

時平公号平院 公世卿

平行時

大納言

清花

陽成院皇子

明し

大江為基

在原業平朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行はるる法華経の根源
[illegible]
[illegible]
[illegible]

高倉川 長亭 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

一源橋

題しらず

大伴家持

寛元元年

大伴家持

みかはの国

勝観法師

三条前内大臣

三条前内大臣

三条前内大臣

拾遺和歌集巻第十三

戀三

題不知　讀人しらず

[illegible]

[illegible]

序所しらず

[illegible]

石上七麿　左大臣麿三男

人丸

秋の月　源さねあきら

中務

人丸

京にすみ侍りける人の
なかつきの月のあかつきをまちて
しんゝゝとして
月新とのくさわたれわすれる
夢さく
月と火の氣は同じくうるわしきものなり
てら月も氣みるこゝろにうつりてはるかに
月ゆえ井みなかるゝ
中宮内侍馬
大和行幸時明け
月とて初ふあとをしたん
題しらず

那まてもとは
ふなをとをすんん
あいふ山人や
あつらんとのつかうへし

月は物をそなへぬれて
ふなをとをすんん
あつらんとのつかうへし
月新とやうなるあかつきの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人麿集に水鶏のたゝくかとゝあるまて
人とゝあるをと聞く
よしや

夏草の

序哥やはり夏草荒れ
るゝ事なれはあるを
いつのけくりまのるを人事と何と思ふとも
あるを同乃ふ後也

みな月

人まろ

ゆふ人をとゝめまかり
きんかるゝし

みな神のたゝりなくて
すゝしくもあるかな

人麿の口伝ハ
たけくもたゝと雅を
ゝるなれハいとゝあるべきなり

人麿集に人ゝ方
なりこんなるしあの野
とゝ人ゝ
いつる上ゝし

みな人のとゝ

夏草の

まろこと前三稜し
序哥し也

天暦御時日ゝ
つゝきれたれ
みつゝけり

御制

山川乃

庭義石家の障子の繪ふ
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

曾根好忠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

序所しけるくに

秋の四のうたとて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源景明

人九

拾遺和歌集巻第十四

恋四

題しらず　　人麿

藤原實方朝臣

小貳命婦

藤原忠房朝臣

源頼光

右近

少將季綱母

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天麿御製

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人丸

題ふ知

石大将道綱母

東三条兼家公御妾見消書

共男伝倫寛子女

古今三奏人内

欲きをまをこころふ人くしかたくし　八重くゝ後ゆや
斧柄とハ王質か斧柄乃柄ゝ事ゝ　ゆゆ集十九
ゆゆ　元ゝ　ゆゆ
ゆゆくゝくゝくゝ　ゆゆ
八重くゝくゝくゝ　ゆゆ
ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ
ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ
ゆゆ　ゆゆ

[illegible]

元長卿みこの御[illegible]

[illegible]

題しらず

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺和歌集巻第十五

恋五

善祐法師

（けぶりの作者し）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

童子

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原有時　右京亮　たかわら恒興子

つゆきえ

人まろ

源景明

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

本云迷子清慎公女

天暦御製

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺和歌集巻第十六

雜春

春の歌の中に、年の内に春立つ日、梅の花、鶯、若菜、霞、柳、桜、その他の雜の歌、次第不同

[illegible]

凡河内躬恒

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紀貫之

中納言兼輔

春ごとに流れてはなるる山川を
せきあげとまれ花の白浪

中務卿具平親王

きのふ春とおもひしかども
あらたまるとしのたちくるものとは
なしかはの水のまさるは何ぞ
春の雨なりけり

贈左近衛督菅原家

宰相のおもひあまりまさんとしの
ほとりの事なりつし
ほとりの物にて
名残惜しきを
時つかへ言かに餘情ふかきや

ちはやぶる
神のいがきに
しめはして
人も通はぬ
道とおもへば

題不知

中納言兼輔

ほのぼのと
春の来ぬれば
あしたの山
桜花
にほひぬるかな

天暦御時歌合

うぐいすの
なくこえきけば
春かぜに
ちりまがふ
花のしたかな

一陸奥

春ごとに
花のさかりは
ありなむを
いとかくのみ
なげくこころ
はいかにぞ

春ごとに
花のさかりは
ありなむを
あだなる
身にぞ
ものはかなき

題不知

春ごとに
花のさかりは
ありなむを
あだなる
身にぞ
ものはかなき

俳業物云ぬ
てうしゃうの
いろ面しをつかふ

[illegible]

源寛信朝臣 [illegible]

内裏乃御格子の時

参議伊衡

[illegible]

清和乃七日の御こと立中宮の屏風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

延喜十五年 舟院廣り家とりて山寺み

いろ人のあり

さのつゆよ

[illegible]

小一條の[illegible]

清性公し

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

院司

右大弁宰相源兼忠

清原元輔

元物集 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

題しらす

みかりする

[illegible]

沖のみくにまうるを

弓削嘉言（ユケノヨシトキ）

歳八歳のあるれと
恒ぬの仰れ来ハ花
ハ[illegible]れ知く
[illegible]

山里の家の八重咲花かきもの仰ハ[illegible]ふ花を
春ものくさかつ[illegible]ふつかはるとして行る
女もの[illegible]
とそ花[illegible]

賀朝法師（比叡山）

壁老を示[illegible]
[illegible]
[illegible]

みかりする

[illegible]

世ハ[illegible]
世を悔[illegible]
祝を悔[illegible]
[illegible]

春の野ふかくる花をたつねわけ世ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原忠房朝臣　是綱子

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

侍従重

屏風のもとに

菅原輔昭（ハケ　ヨキ）　三位文時子

屏風の面みもしらぬ
ものゆへ　ものかなしき
ものゆへ　ものかなしき所

滝八ツ　八ツ　八ツ　八ツ　八ツ　八ツ　八ツ　八ツ

屏風時法師

やまとの国の色にそめてみるかなしさわすれ
京の京院京極のもとにすまひてゆ
かけば出色にそめたる
さを法師

物をとこ入くるとてみてしまとう
山ぶみをせうぶのけとよ
なるて　なれてこそ
けいをなるまてくいなをしよ

物をやとしてあらんに相識をえやはとあ
とめかしとのあるとをとれるをとき
るまはかこと
いそ　紙屋を
ひくとあるや

不乃ようしわちうをもいあるうえやはとめぬ
ひえ乃山すまちるをもいあるうえやはとめぬ
ちるをれ　ちるをれ　ちるをれ　ちるをれ
ちるをれ　ちるをれ　ちるをれ　ちるをれ

一陳のきうん　良平のみこれむもの

ふちちのうてちる　如覚法師　九条師輔子　元亨天皇ノ

右馬頭公任　元年十月　従不出江三年
七月廿一日上表辞中納言　勅
殊加従二位　即日出仕

右馬頭　道長公長徳二年九月
長和五　寛弘

道長公長徳二年九月
長和五　寛弘

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺和歌集巻第十七

雑秋

屏風ノ七月七日　源順

七夕の　たなばたつめに　かしつるは　ふるのやかみの　ふるごとぞ

七夕陳風菓　延中二以毛所ヲ有婚ヲ細ニ説ル上ニ則以縫巧ヲ　巳わりけいこうこのよとなるもや

屏風ノ七月七日　源順

天の川　なかれてはやし　たなばたの　ふねこぎいでぬ　ほどぞ　すくなき

延朝みこ

七夕後朝　みこ

織女の　あかれぬ　なかれ　はやし　たなばたの　ふねこぎいでぬ　ほどぞ　すくなき

一條後院の少将諸恋の歌　三条代明親王の伴侶

一條院の　ひかりの　ふる　ことの　ふる　時

贈皇后宮懐子

ふるとも　ふるとも　ふる　ことの　ふる　時

題ふる知　躬恒

ふるとも　ふる　ことの　ふる　時

ふるとも　ふる　ことの　ふる　時

八月ばか

天暦御製

天徳四年内裏歌合

中務

元輔

源たかみ

仁和御時屏風

年号年

藤原義孝 右近少将 春宮権亮

右衛門督公任

備前遍昭

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

旅宴

行脚集に此年詞書ありてあり

八月十八の家にて

[illegible]

[illegible]

清慎公千賀の序風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題ふ知

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

玄旨云作者ハナケレトモ
もしかすこ行者を指
つけしとおぼえ侍
いつり院の八幡
天子れい行幸つ
まてみゆきとよめり

小倉山ねの雪ふるさとしさひのあきまくれ
ゆくくるかつら屏風

六中将紙宜

ふるさとにつもるそくさ高雄のもみちはきえ
ぬ雪ふる

白浪のよりくるそくさ
みひとをとる

竹河の御
水路とおぼえ
竹河
竹の路ハ
竹の路ハ
竹河

紅葉ちるかつら河ハ
あ
院ハ屏風

おなしの御
御はかるんとそ

水ハのくるくるくる

秋月景と絶景をふひけく
おもしろいかなしけるさまあさましかりしとかいてつかうまつる

りんちとうの　源順

十月つごもりの日殿上のこもちの所の
まかりて侍るに

清原元輔

秋はいりこうしをくしあけて又立ちかへりいのやんとやすれ
一日をかをさしけぬとや

秋の夜の月

時雨と

秋人のうつる紅葉にうち
思ふしやそれ
けるきれて時雨
をうちしぐるとかとあり
十月時雨の比の宗家さること
あり行きえうるや

源順

代々祈祷をつ
とめあるし法師かな

彼僧の用乃時雨ることに
被乃おこはきれて
おのをを被すそや
きりんとや

みはれ

右京の大夫為忠の家の集の
元慶の時伊勢の家の集の
つるすて

中務

右京の大夫為忠の家の集の
天暦御製

ほるそへ

木中をみれとうしたうしたや
おちとるそへ
よるといへとや
たいはいかるへし
名をもきあるとあるをやれる
やうとこ規模なるへし

御製

しらす名をうれ宿のうのはしらのはしらのうちとうるうちとまりてへ
名をもきあるとあるをやれる
やうとこ規模なるへし

桂中納言義憲

義憲ハ謙徳公三男正二位中納言成ル　寛和二年六月廿二日花山院御出家ノ日御供ニ入道ス　七歳宮ニ仕ル

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺和歌集巻第十八

雜賀

賀茂社詣のミにて遠方寺とまりしまるべ

延喜三年五月中宮御屏風之日

紀貫之

屏風

伊勢

伊勢集云男女のつミの年の賀をしたりける屏風

九條右大臣五十賀屏風に行わるべきよし

中宮すけ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

延喜御時 所隆

つゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右の紙をこそ[illegible]

右大家ばかりわらはなんてこそけめ

詩

[illegible]

水樹多佳類　遊乃本さとき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春[illegible]
焦[illegible]
竜門山[illegible]

[illegible]

[illegible]

良峯義方 春宴衆樹子 天長八年 左中将

藤原忠房朝臣

右兵衛督

[illegible]

[illegible]

じすたん

[illegible]

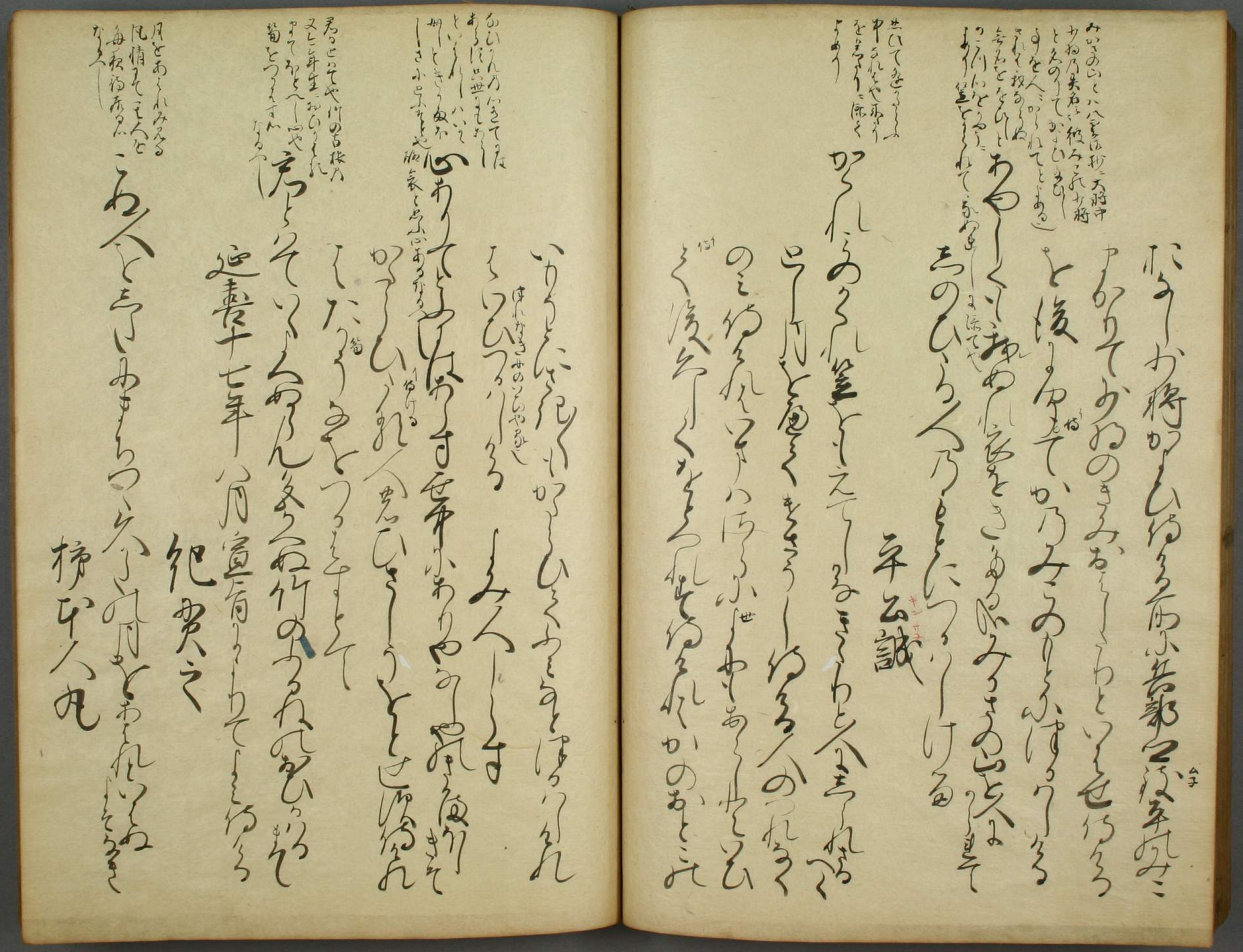
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



辛丑誠

紀貫之

柳下人丸

春日使二月上申日春日祭
先示日使五近衆中少将つと
むと公事根源より江次第

十市皇女和しの歌事の
きさきとうへくや
久堂くそもりて
歌事ゆきあるは小皇乃位うつるもまたと

一條摂政

みひてしまし

春之歌八首

秀吉卿道綱母

[illegible]

[illegible]

[illegible]

飯室猪河乃集（義懐
逸無集）

伝四位下右近中将長保四年出家入道中納言義懐男

成房朝臣法師子にしてひしりの
ことのはの
かりにあれはかりそかりの
則忠朝臣女　三位則忠

身をうしなふ魂といひけむ
花山院を玉匣とをりて雑引
乃枝に生死を知め
いかにあらん

つゆくさのあるるふかくすすむ
ちりなるこ
ちけ乃

拾遺和歌集巻第十九

雑恋

題しらず

柳本八九

神根山大和　童蒙抄云
人丸ハ天平乃時の人也宗兼
天皇三年秋九月郡を
砂堤に柳葉
色を揚雖云云
見日本紀者也

ちとせふる神ちる山風
つたへてはいかなる
けけれしつたへてはいかなる
年月をみ

延喜式神名帳云稲荷ノ神社三座
下社大山咋中社倉稲魂
上社土根神

ほの山ちかめ
ほの山ちかめ
ほの山ちかめ
ほの山ちかめ

柳本八九

人の侍ひとりとかくしてとの
いてるかをあさなうとよこてを
うとむとや

大中臣能宣

あしたのとあるはつ
ゆきのうへにたんかの心とへかるべし

はつ雪の人の書たる嬢かるる詠日自然と立んと思ふ人あるべきなれ
のつとめとおけてあるとかもむ人ねの物語し但人書人みあるて
やまんねあるてやまんねあるべ
あるとやねこのまもあるのまうのはえや

しくれのふるかとてきさらしの
ゆきのうへにもるきかな

めしあるとてきさらしの
すのうへにもるきかな

みかさのやまのはつ雪

贈太政大臣 菅

もハ賀三廟乃彼四年の後と長百
歌てよ四せ九のかるて一ん
前の年大つ同後
正暦四年十二月 贈太政大臣

おもかるる物ハ家うこ思ひあるまて
なるまの人こあひ
てるまをあけう
てもあるかな

あしたのとあるはつ
ゆきのうへにもるきかな

白雲のふるとてるとてるとの
ゆきとしのふりとはをそるの

白雲のハの京
京といふん程過
ゆもはの人をあうの人もとて事ゆやーさとの心や

八雲御抄云色迫以乃はくもの花明抜の器
男の数に物を主そて作まそてなるとつつ
伊勢ハ迫ひかる
統歌のふるよく
せるんとろ

いつかしつくとはるもしつれなきこのうちの
ゆうん
まつ将ふるかうかはるもとまるもとまるも
ゆうはるあるうるうるうるうるうるうるよ

論会第四月三月清涼殿東間閑四三

小野宮右大臣

はるのうるうるうるうるうるうる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世をうんぬんとうらみきまをとこ
人の山ざとをあくまをとせんせ
ちふ[illegible]
しるうれしるうれしるうれん方も
あきを歌くへ人の
[illegible]

[illegible]

[illegible]

坂上郎女

大伴坂上郎女

寄物陳思

大伴坂上郎女

中納言家持

雨中に向ひて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

久しの雨ふる日ぞ
おもひわびぬしらるる女のうらめ
[illegible]

月みんとたくねるぞのかつらめしまもとろ
ふとうんまてまつとひねる

[illegible]

みつとしらす

雨ふりて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

名古屋三藤ツ
雨の
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

同蝕乃時
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

貴之集云寛元二年五月中宮御産所
四月四日より日比祈り侵とあり天祐也三歌し
寄せんの所し

いつしかと[illegible]

[illegible]

女のとしあるひとる侍りけし

藤原長能

代々文字かりといえんなり
寄りの所に詞出る
所也

おもひてはいまはの[illegible]

稲荷[illegible]

代々[illegible]貴金ホウテ一云祈願ヒ
[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺和歌集巻第二十

哀傷

[illegible]

小野宮左大臣 清慎公

[illegible]

年為盛

[illegible]

清原元輔

清慎公息女三人より
慶子女御 朱雀院妃
述子 弘徽殿女御
今一人大系図にあり

大弁藤宣

大納言延光　代頭弘子

一陳相政

康保四年五月廿八日嗣

天暦御門

女蔵人兵庫

永延元年八月年通兼公男

雲間右大臣　関白兼公

右大臣　寛光五　兼通公子

宣方　六条左大臣重信公子

藤原道信朝臣

天暦御製

大貳國章

中宮の御方の秋の前栽を
ほかるとて御
天暦御製

朱雀院

朱雀院の御

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原為家朝臣歌

大納言朝光卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紀友則

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御製　朱雀院御方

[illegible]

[illegible]

[illegible]

慶滋保胤（ヨシシゲノヤスタネ）入日記

法名を敬西仏極思行寺

つけくはる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女院御八講捧物

東三条院第二皇女 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伽藍縁起図、歟、[illegible]

[illegible]

[illegible]

天福元年
四条院御即位之年也 宮内卿
建保二年 壬午 誕生長寛元
年 壬午 六十一家至天福元年
癸巳 七十二家也

天福元年仲秋中旬ノ比 有餘之旨 自ラ 皇ニ 以 愚本ノ書写ノ 八箇日ニ終功ノ
此集西之剪 傳 無指證本 仍 数多 旧本ノ 校合彼是ノ 取其要ニ 不審ニ
抄寄五百九十四首 上二百四十五 下三百五十九首

春中
恋上

中納言師氏

さいつへくもける年をすくすとなれるわかさこそ浦なりしかな

或本ニ無 入 校 撰

赤染衛門

ふりはてぬ物とはしらすくもりけるとはかりなるあきの月かな

此二首集不見寄也

五百九十二首 集抄無相違

拾遺抄寄

春五十七
秋冬九
賀廿一
恋上七十五 二首集不見 或本無
雜上一百廿三

夏三十二
冬廿二
別 四
恋下七十六 一首集不見
雜下八十六
雜上五百九十四首

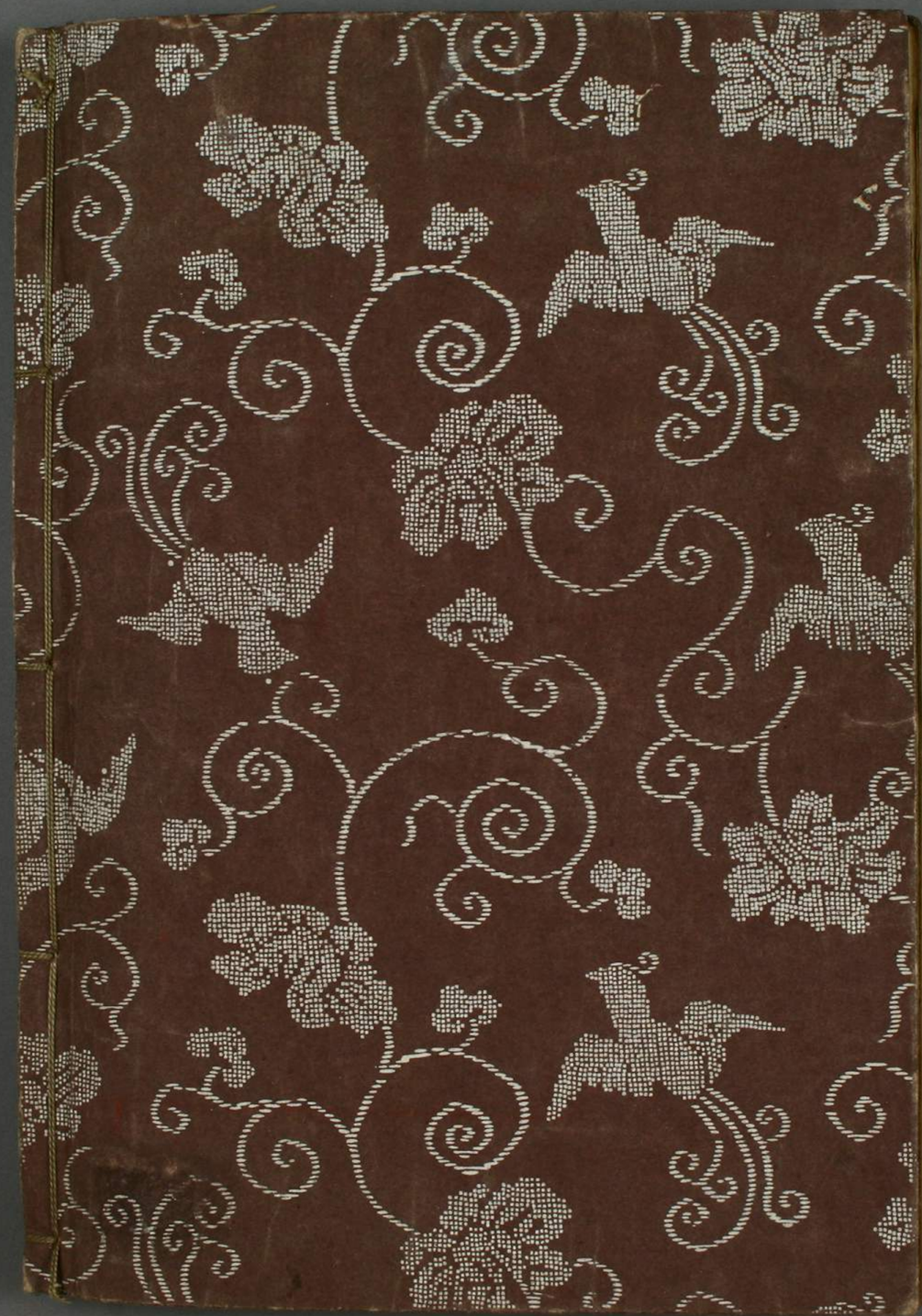
此本付属大夫為相 頼齢六十八 東門融覚 判

以相傳秘本 授文弟 具書写校合訖

德治三年 閏八月十七日 参議藤原朝臣 判

德治三年 改元正安元年 即位之年

融覚 為成 法名 後鳥羽院 建久八年誕生 土御門院 文永元年 十六 八家 後宇多院 延慶元年 五月 朝 逝 七十九

延寶七年 己未 八月二日 是抄出之初 翌日年 霜月六日 終功年

小村季吟